



まいづる

発行人 大澤正史

本校の学習状況について

(今年度6年生が実施した全国学力・学習状況調査の結果)



今年度の全国学力・学習調査とはどんな調査ですか？

A1 2007年より日本全国の小中学校の最高学年（小学6年生、中学3年生）全員を対象として行われるテストのこと。実施日は毎年4月の第3もしくは第4火曜日としている。「全国学力テスト」とも呼ばれるが、学力・学習状況の調査的性格のあるテストである。算数（数学）と国語と理科（2012年から）の3科目で、それぞれ知識力を問う問題(A)と知識活用力を問う問題(B)の2種類に分かれている。（今年度は、理科も実施している）
学力を問う問題だけでなく、児童・生徒の学習・生活環境のアンケート調査も行う。



知識を問う問題（A）とは具体的にどんな問題ですか？

A2 国語では、漢字の読み書き。（具体的には「招く」「信念」などの読み方 鳥のすを観察する。びょういんに行く。下線部を漢字で書くなど）主語を選ぶ問題（例えば「降っていた雨が急にやんだ」の主語はどれか？）
物語文やコラム説明文の一部（10行くらい）を読み、説明されている内容を選ぶ。

算数では、「 $8.9 - 0.78 =$ 」のおよその答えを選択肢（ $0.1 \cdot 1 \cdot 0.8 \cdot 8$ ）から選ぶ
「 $6.3 + 0.22 = 6.52$ と求めたが、良いかどうか？確かめ算を行う式を書く。」
「 $28 + 72 =$ 」「 $6.79 - 0.8 =$ 」「 $5 \div 9$ （九分の五） $- 1 \div 4$ （四分の一）」など。
分度器で角度を調べる。二等辺三角形の性質など。直方体の展開図を描く。



知識活用力を問う問題（B）とは、どんな問題ですか？

A3 国語では、自分の考えを書く問題。説明的な文章（1200字程度：原稿用紙3枚程度）を読み、内容をまとめる。
また、その文章を元に、指示に従って説明する文章を100字以内で書くなどの書くことが重要視されている問題。

算数では、平行四辺形の特徴を問う問題。買い物（安くなる買い方）や学校生活（ペットボトルキャップ集め）など実生活のことを題材とした問題。

なぜそのような答えになるか、説明する問題。（算数においても説明を書くということが、求められる）

いずれにしても、生活に密着した問題を算数的に説明し答える問題。



今回、理科が加わっていますが、
理科はどんな問題ですか？
理科にもA Bの問題があるのですか？

A 4 理科はA Bの区別した問題はありません。

振り子の性質を使った振り子時計を遅れないようにする方法を選ぶ問題。

電磁石の強さや磁界の向きを決める条件を選ぶ問題。乾電池のつなぎ方も出題された。
メダカの雌雄の見分け方。顕微鏡の使い方。

アイスマルクティを作るときの現象（水蒸気の性質や茶葉の動きから水のあたたまり方）を科学的にとらえる問題。

メスシリンダーの使い方。

月や星の動き方の問題



質問紙調査とはどんな内容
ですか？

A 5 全部で87項目あります。「朝食を毎日食べていますか」に始まり、「テレビを見たりゲームをする時間はどのくらいか」「家での学習時間はどのくらいか」「住んでいる地域の行事に参加しているか」など、学校や家庭での生活について質問しています。



舞鶴小の学力状況は
どのようになっていますか？

A 6 国語(A)は、国・県の平均を大きく上回りました。

国語(B)も、国・県の平均を大きく上回っています。

算数は(A)、(B)とも、国・県の平均を上回りました。

理科についても、国・県の平均を大きく上回っています。

* 本校の研究会で分析した内容・課題

国語は、漢字に関する正答率が高い。

記述式の正答率がかなり高い。

読み取る力が付いている。

算数は、分度器を使って角の大きさを求める問題が他の問題の正答率に比べて低かった。(特に「180度より大きい角の大きさを調べる」問題)

算数における与えられた条件に即して説明することが国・県の平均をほんの少し下回った。

理科は、すべての問題で正答率が高い。実験器具(メスシリンダー)や顕微鏡の名称や使い方をよく理解している。

出題傾向としては算数も国語も理科も、単純な暗記で答えが出せるという問題ではなく、条件を使いそれに沿った説明をさせるような問題が出されている。



今後、どのような
学習指導(国語・算数)を
していきますか?

A7 国語>>>>

- ・読んだり書いたりするという基本的な学習はさらに続けて力を入れていく。特に低学年では、家庭の協力を得て、読むことを行っていく。
- ・授業では話し合い活動などを積極的に設定し、自分の考えを相手に説明する場を設定し、情報を総合的に判断できるようにする。
- ・自分の考えをしっかりと持てるように、書く場面を授業の中に設定する。

算数>>>>

- ・算数的な用語や考え方をを用いて、与えられた条件に即し説明を書く場面を取り入れる。
- ・自分が考えたやり方を発表するとき、算数的な考え方に基づいた説明ができるようにする。
- ・ものさしや分度器、コンパス等の用具の使い方を反復練習して、できるようにする。
- ・具体物、半具体物、線分図等を使って、数量を視覚的にとらえてから、式を作るようにする。

理科は>>>>

- ・ただ単に現象や観察を科学的に教えるだけでは、不十分で、実験や観察の結果から、わかったことを説明するような場面を設定していく。
- ・実験や観察結果を科学的用語を使い、まとめて書くという場面を設定していく。

* いずれにしても、学力向上には教師が楽しく分かる授業を行うことが第一です。子供が、目を輝かせて挑戦してくるような授業、クラス全員が一丸となって、一つの問題の解決に向けて協力するような授業、そんな授業を常に心がけているのが本校の職員です。目指す教師像「燃える教師」、教師は授業で燃えるということです。

「聞く」ということが、様々な場面で重要視されます。私は日頃から「話は目で聞く」を子供たちに徹底させています。このことは、授業を行う上で最も基本的な習慣です。子供たちも職員も「聞く」ことを大切にしていきます。

本校職員の目指す教師像「聞ける教師」を常に意識していきます。



本校の質問紙調査の結果は
どうでしたか？

A8 生活習慣については、次の項目が国や県の平均を上回っていました。

- ・朝食を食べる。同じ時間に寝る、起きる。
- ・物事を最後までやり遂げてうれしいということがある。自分には良いところがあると思う。
- ・学校の決まりを守っている。友達との約束を守っている。
- ・友達の意見を最後まで聞く。
- ・将来の夢を持っている。
- ・家の人と学校のことについて話す（県や国の平均を大きく上回った項目）
- ・1日あたりのテレビ、ビデオを見る時間が、国や県の平均よりだいぶ少ない。
- ・月～金曜の家に帰ってからの学習（塾等の時間も含む）は県や全国の平均を大きく上回っている。（1時間以上行っている子供が約90%）
土日も勉強している割合が高い。
- ・家で自分で計画を立てて勉強している。（県や国の平均を大きく上回っている）
- ・学校の決まりを守っていると95%以上の子供が答えている。

学習に対する意欲や関心について、次の項目が国や県の平均を上回っていました。

- ・家で学校の授業の予習をしている。（国や県の平均を大きく上回っている）
- ・家で学校の授業の復習をしている。（国や県の平均を大きく上回っている）
- ・以下の「好き」については、読書は国と県の平均を大きく上回り、他は同等である。
（読書好き＝93% 国語が好き＝66% 算数が好き＝70% 理科＝87%）

地域・社会との関わりについては、次の項目が国や県の平均を上回っていました。

- ・地域の行事へ参加している＝76%（国・県と同等）
- ・地域や社会で起こっている出来事に関心がある＝66%
- ・ニュースを見る＝93%
- ・新聞を読んでいる＝52%（月に1～3回程度も含む）
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある＝62%（大きく上回っている）

* 質問紙から

本校は「基本的な生活習慣や学習習慣が付けられている。」ということがわかります。各家庭の協力のお陰だと感謝しています。

今後は、さらに家庭と連携を深め、生活習慣の確立が持続出来ますようにお願いします。



本校の6年生は、家に帰ってからも、予習や復習をしている子供がほとんどです。各学年もその段階に応じて、家庭学習が出来るような方法（宿題や自由勉強）を考えておこなっていきます。学力の向上には家庭学習も大きな効果があります。また、西中学校区の三校連携（西中・池田小・本校）の話し合い等でも、小中一貫した家庭学習についてのめやすを決めました。（1, 2年＝20分 3, 4年＝40分 5, 6年＝60分）今後、家庭学習の習慣化について、各家庭には引き続き、ご協力をお願いいたします。

